

5.3 らくらく施肥法（水口施肥法）

サンアグロがお勧めする水口から流すだけの「らくらく施肥法」は、いつでも・だれでも・カンタンに暑い夏や大きい田んぼでも楽に施肥できます。「らくらく施肥法」には、溶解性に優れた専用のポーラス肥料を使用しますので、地下水や河川といった環境への負荷も少ない施肥法です。

5.3.1 らくらく施肥法の特長

省 力

- 田んぼに入らず施肥できます。
- 機械散布よりも安全で、らくに施肥ができます。

環境にやさしい

- 土壌吸着性に優れた「ポーラス肥料」を使用するので地下水や河川を汚しません。
- 動力散布機を使用しないので、CO₂排出量削減にも貢献します。

低コスト

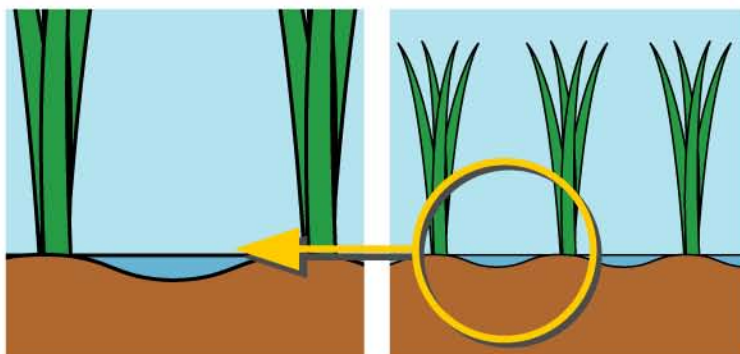
- 一般的な基肥一発肥料を使う場合と比べて低コストな施肥法です。

らくらく施肥法はその効果が高く評価され稲作指導指針に掲載されている県もあります。

5.3.2 らくらく施肥法の準備

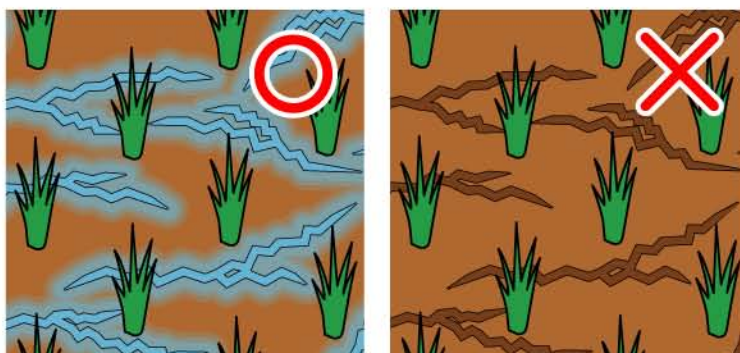
水位を調整

足つぼに水がたまっている“ひたひた水”（水深1cm）程度に水位を調整してください。



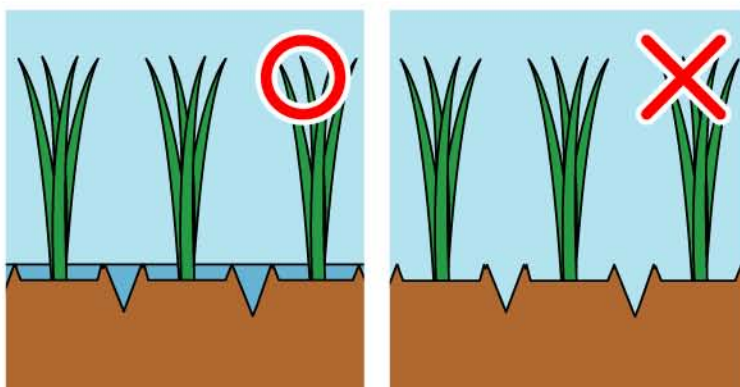
中干し後は…

中干し後は前日から水を入れ、土壌を水で飽和状態にしておきます。



溝や亀裂を水で埋める

溝切りしている場合や田面に亀裂が入っている場合は溝や亀裂を水で埋めておいてください。



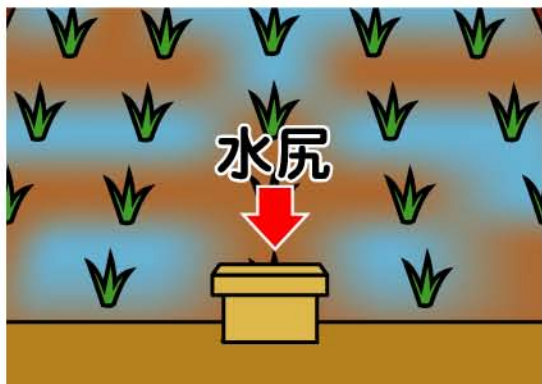
5.3.3 らくらく施肥法の条件

- 1) 灌がい水が安定して確保できること。
- 2) 畦畔の高さが最低でも15cm以上であること。
- 3) 減水深が1日あたり3cm以下の水田であること。
- 4) 水口、水尻が独立していること。(かけ流しではないこと)
- 5) 田面の高低差が少ない(±10cm以下)水田であること。

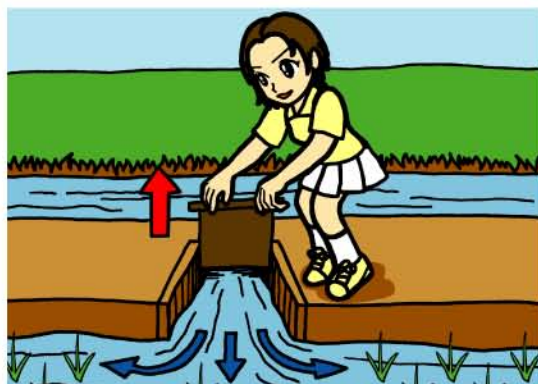
※あらゆる生育ステージ(基肥・追肥)で施肥できます。

5.3.4 らくらく施肥法の手順

- ① 水尻をしっかりと止めます。



- ② 水口から灌がい水を入れ始めます。



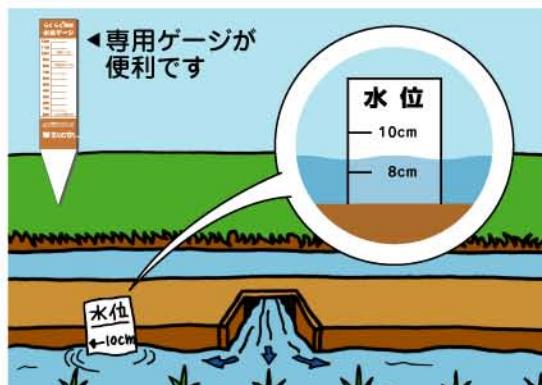
- ③ すぐに施肥せずに5～10分待ちます。



- ④ 水口から専用肥料を投入します。
1袋あたり1～2分、水量が少ない場合は5～10分かけてください。



- ⑤ 流し込み開始水位から8～10cmになるまで灌がい水を入れ続けます。



- ⑥ 施肥後3～4日は落水や入水はせず、また田んぼには入らないでください。



※複数水口がある場合は、入水しているすべての水口から肥料を投入してください。

※一辺が150m以上の水田では、2回以上に分けて施肥してください。

5.3.5 らくらく専用肥料

粒が中空になっています。水に溶けやすく、瞬時に液肥となって水とともに広がっていきます。

中空(ポーラス)



ポーラス肥料